

公益社団法人日本地球惑星科学連合  
2022年度(令和4年度)第3回理事会議事録

1. 開催日時 2022年7月28日(金) 9:00-11:30

2. 開催場所 Zoomによるオンライン会議

3. 出席者 理事数 20名  
出席理事 17名 (定足数11名 会議成立)

4. 議長 理事 高橋 幸弘

5. 出席役員

理事 高橋 幸弘

理事 田近 英一

理事 サイモン・ウォリス

理事 小口 千明

理事 河宮 未知生

理事 堀 利栄

理事 阿部 なつ江

理事 大谷 栄治

理事 沖 理子

理事 川幡 穂高

理事 倉本 圭

理事 成瀬 元

理事 長谷川 直子

理事 福山 繭子

理事 道林 克禎

理事 村山 泰啓

理事 和田 浩二

監事 春山 成子

監事 松本 淳

6. 出席オブザーバー

ダイバーシティ推進委員会委員長

坂野井 和代

環境災害対応委員会委員長	宮地 良典
宇宙惑星科学セクション幹事	佐々木 貴教
地球人間圏科学セクションプレジデント	小口 高
地球人間圏科学セクション幹事	松多 信尚
地球人間圏科学セクション幹事	若狭 幸
固体地球科学セクションプレジデント	田中 聡
地球生命科学セクションプレジデント	掛川 武
地球生命科学セクションバイスプレジデント	黒柳 あずみ
地球生命科学セクションバイスプレジデント	遠藤 一佳
地球生命科学セクション幹事	岡崎 裕典
学協会長会議議長	巖網林

午後9時00分、定数に達したので高橋幸弘会長が開会を宣言した。インターネット会議システムZoomを利用し、審議において参加者全員が互いに適時的確な意見表明ができることを確認した。

## 7. 審議事項

### 第1号議案 新入会員承認の件

- ・定款第8条2項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を審議し、これを承認した。

### 第2号議案 賛助会員承認の件

- ・定款第8条2項の会員の入会の定めに従いエダング株式会社の新規賛助会員入会について審議し、これを承認した。

今後、賛助会員の申請についてはチェック項目や推薦者などを設けることを検討するとした。

### 第3号議案 委員会委員承認の件

- ・総務委員会、財務委員会、大会運営委員会、情報システム委員会、グローバル戦略委員会、広報普及委員会、環境災害対応委員会、ダイバーシティ推進委員会、ジャーナル編集委員会、顕彰委員会の委員を審議し承認した。一部名簿に所属の間違があったので修正する。

なお各委員長は委員会の互選となるので本理事会で承認されたのち委員長となる。

- ・委員会・セクションボード・代議員の女性比率について検討した。目標を20%以上としている。一部委員会は達成していないが暫定的な部分もあり引き続き努力する。
- ・また、次世代の育成にも力を入れていきたい。

#### 第4号議案 会計処理規則改訂の件

- ・会計処理規則について、特定資産設置時に記載の更新がされていなかったため、これを修正することを審議し承認した。

#### 第5号議案 大会特別手当の件

- ・事務局職員に対して大会特別手当を支給することを審議し承認した。

#### 第6号議案 その他

- ・高橋会長より、緊急動議として「SDGsへの貢献に向けた宣言」の提案があり、これを審議し、承認した。日本地球惑星科学連合の名義で発出する。微細な文言の修正がある場合には近日中に会長まで連絡すること。17日発出を予定する。

### 8. 報告事項

#### 1. 高橋 幸弘代表理事 職務報告

- ・SDGs タスクフォースの活動報告があった。引き続きウェブ作成やセッション提案を検討している。
- ・資金確保に向け、今後大企業にも働きかけていきたい。
- ・大会運営の体制について検討している。一部の委員等に過度な負担が集中しないような持続可能な体制を目指したい。
- ・環境災害対応委員会について、これまでのところ学協会代表のメンバーが委員となっているが、今後はそれ以外の方にも委員になっていただき、活力ある活動を目指したい。

#### 2. 田近 英一理事（広報普及担当）職務報告

- ・前号のJGLの情報が一部抜けているため、修正版を準備している。次号は8月に完成できるよう作業を進めている。
- ・大会準備期に事務局の負担が大きくなっているため、大会広報について体制を強化したい。

#### 3. ウォリス理事 職務報告

- ・グローバル戦略委員会の活動について報告があった。

#### 4. 小口 千明理事 職務報告

- ・教育検討委員会等の活動について報告があった。

#### 5. 河宮 未知生理事 職務報告

- ・財務委員会、情報システム委員会、ジャーナル編集委員会の活動について報告があった。

#### 6. 堀 利栄理事 職務報告

- ・ダイバーシティ推進委員会の活動について報告があった。

#### 7. 道林 克禎理事（総務担当）職務報告

- ・共催・後援・後援した行事について報告があった。
- ・慶弔関連の報告があった。2名の方にお悔やみのカードを送った。
- ・労働基準監督署から立ち入り調査があり、9月に総務委員長と事務局が対応する。
- ・各委員会、セクションボードの活動を互いに把握し全体の透明性を確保するため、会議開催予定と議事録を事務局に通知してほしいという要望があった。
- ・高橋会長より、上記に関連し理事会、業務執行理事会でも議事メモを共有し透明性を確保してゆきたいという報告があった。

#### 8. 成瀬 元理事（財務担当）職務報告

- ・大会への後援・協賛団体に報告する大会収支計算書について報告があった。

#### 9. 和田 浩二理事（大会運営担当）職務報告

- ・2022年大会の開催報告があった。

参加登録者は6789名であった。他、各日の現地来場者数、参加申し込み者数の年比較、イベントの参加・アクセスランキングの報告があった。

- ・現地会場の様子について、写真を用いて報告があった。
- ・大会終了後アンケート結果について報告があった。回収件数は251件であった。
- ・大過なく終了できたことの要因として以下のことが報告された。

現地参加とオンライン参加の料金設定を区別しなかった。参加者にそれぞれの立場で理解・協力していただいた。Confitの機能が充実してきた。アルバイト部隊およびハイブリッドシステムが機能した。来場者が予想と一致した。COVID対策や入場方法に理解が得られた。ほとんどのセッションでフラッシュトークが実施された。

- ・反省点として、以下が報告された。

発表者の早期参加登録が充分でない。現地ポスター発表要望が会期直前まで寄せられた。現地ポスター発表の有無を公知しなかった。展示場ホール特設会場について賛否があった。現地会場での各部屋でのセッション案内表示がなかった。ほとんどのセッションで延長が見られた。

- ・次回の方針について報告があった。

2023年大会は基本的に2022年大会の方式を踏襲する。ただしオンラインポスター発表の期間については再検討が必要である。大会期間が2週間にわたることが長いという声が多い。

8月末までに方針を決め、10月3日にセッション募集を開始する予定である。

- ・ハイライトセッション、ハイライト論文の効果について質問があった。

プレスに対して一定の効果は見られたが、調査が必要である。

- ・海外参加者のポスターが貼付されていない例が見られたが、コンビーナーに情報が伝わっていない場合があった。

- ・他の学会でも開催方式について様々な工夫が見られるので、参考にするとよいという意見があった。

- ・EGUと開催期間が重複したため、共同での企画を行ったが、その効果について質問があった。特に効果について情報はなかった。

#### 10. 沖 大幹理事（グローバル戦略担当）職務報告

- ・沖理事の代理でウォリス理事より報告があった。2022年大会でのグローバル戦略委員会関連の報告があった。JpGU & Friendsの合同ブースを設置した。

- ・国際交流貢献賞の創設を検討している。次回以降のグローバル戦略委員会で検討を開始する。

- ・Taiwan Geoscience Assemblyで高橋会長が招待講演を行った。

- ・AGU2022にブース出展を予定している。

- ・JpGU-AGU Leadership Meetingの開催報告があった。

今後どのように共催を行うかについて検討した。2025年大会での共催を目指すことを合意した。

- ・IGCの問題について、明日29日に韓国側と話し合いをもつ予定である。竹島巡検は開催しないということで合意済である。日本海の呼称問題については明日話し合う予定である。

- ・高橋会長より、連合単位のMOUとは別に、国際的な個別の学会とも連携していきたいという展望の報告があった。

#### 11. ダイバーシティ推進委員会活動報告（阿部担当理事）

- ・坂野井委員長より ダイバーシティ推進委員会の報告があった。

- ・2022年大会でユニオンセッションとパブリックセッションを開催した。オンラインキャリア相談会を開催した。保育支援については大会後もリマインドを掲載したが、申し込みは1件であった。

- ・男女共同参画学協会連絡・若手育成WGオンラインミーティングを開催した。このWGに関連して、研究者雇い止め問題にJpGUとして提言を出すことを検討してほしいという要望があった。

- ・男女共同参画学協会連絡が開催した大規模アンケートについて報告があった。女性比率を上げる施策について不満が見られた。

#### 12. 教育検討委員会活動報告（阿部担当理事）

- ・教育検討委員会の活動報告があった。
- ・全国高校地学教員連絡会の活動報告があった。
- ・教育国際対応小委員会の活動報告があった。AGIと連携して、高校生対象にアドバイスをこなうなどの活動を行っている。こうした活動の一環として、教育国際検討小委員会と広報委員会の有志メンバーより、未来科学者育成WG（仮称）設置の提案があった。AGIとの関係を明確にすることやメンバーの構成など、検討項目を整理する。

#### 13. 環境災害対応委員会報告（沖担当理事）

- ・沖理事の代理で宮地委員長から委員会活動報告があった。
- ・委員について、高橋会長の報告の通り学協会から以外にも、セクションからも募集する予定である。
- ・7月11日に会議をおこなった。防災学術連携体委員として宮地委員、奥村委員を選出した。ぼうさいこくたい2022 10月22日(土)23日(日)にポスター発表で参加する。

#### 14. 情報システム委員会活動報告（村山担当理事）

- ・日本ORCIDコンソーシアム会員としてORCIDのツールAffiliation Managerが利用可能となり現在使用試験中である。今後JpGU会員の業績を登録してゆきたい。登録作業が開始したら、その際に登録対応をお願いしたい（事後の追加登録は受け付けないようにしたい）。
- ・オープンサイエンス小委員会活動報告があった。ジャーナル出版とセットでの研究データ公開が国際的にも要請されている。地球惑星科学分野のデータプラットフォーム整備を検討する体制を検討したい。

#### 15. ジャーナル関連活動報告（倉本担当理事）

- ・ジャーナル関連の活動報告があった。
- ・インパクトファクターは上昇しているが外の学術誌の数字も上昇している
- ・投稿・出版状況について報告があった。順調に推移している。
- ・編集長会議開催報告があった。良質な論文を確保することが重要であるので、良質な研究を行っている研究者に積極的に声掛けをしてゆきたい。Comment・Reply論文について見直しをおこなった。Accept、Decisionのポリシーについて再検討した。

#### 16. 顕彰委員会活動報告（川幡担当理事）

- ・顕彰委員会の活動報告があった。これまでの実績により、フェロー審査については安定してきている。全会員の1%を目安としている。

現在、新たな賞の創設を検討している。ダイバーシティの顕彰、セクションの賞などを検討している。また連合への大きな貢献をされた方や高額寄附者を顕彰し、大会の場でも部屋を用意するなどを検討している。

高橋会長より、セクションボードでも新しい賞についても検討してほしいという要望があった。

議長は以上をもって、すべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した（11時30分）。以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席理事は次に記名・押印する。（捺印欄配布時省略）

2022年7月28日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第3回理事会

出席理事 高橋 幸弘

出席理事 田近 英一

出席理事 サイモン・ウォリス

出席理事 小口 千明

出席理事 河宮 未知生

出席理事 堀 利栄

出席理事 阿部 なつ江

出席理事 大谷 栄治

出席理事 沖 理子

出席理事 川幡 穂高

出席理事 倉本 圭

出席理事	成瀬	元
出席理事	長谷川	直子
出席理事	福山	繭子
出席理事	道林	克禎
出席理事	村山	泰啓
出席理事	和田	浩二
出席監事	春山	成子
出席監事	松本	淳